

探究的な学習を充実させるために

—「課題の設定」における学習活動の工夫改善—

総合的な学習の時間研究会議

研究員 鈴木 淳子（川崎市立住吉小学校）

本堂 建則（川崎市立西御幸小学校）

足立 剛（川崎市立西高津中学校）

池田 美紀（川崎市立日吉中学校）

指導主事 中西 憲子

I 主題設定の理由

探究的な学習は、総合的な学習の時間の重要な要件の一つである。『学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』には、探究的な学習の一連の学習活動として、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程が示された。このことにより、探究的な学習に対する理解が進み、4つの学習過程を意識した単元づくりが行われるようになった。

探究的な学習の入口である「課題の設定」は、児童生徒が自ら課題意識をもち、その意識を連続させたり、発展させたりするための重要な学習過程である。一方、他の学習過程に比べて具体的な学習活動をイメージしづらく、「課題の設定」に難しさを感じている教師は少なくない。「課題の設定」における学習活動の工夫改善を探り、探究的な学習の充実を図りたいと考え、主題を設定した。

II 研究の内容

1 「課題の設定」における学習活動の工夫

（1）学習対象への課題意識を高める

総合的な学習の時間では、児童生徒が学習対象との出会いの中で、自ら課題をもつことが望ましい。しかし、それは、教師が何もしないでじっと待つということではない。児童生徒が自ら学習対象への課題意識を高めるには、教師の意図的な働きかけが必要である。

本研究会議では、教師の意図的な働きかけとして、次の3点を実践することとした。第1に、学習対象を明確にする。「何を学ぶか」という学習対象が明らかになれば、学習活動を組織できない。第2に、学習対象に直接触れる体験活動を工夫する。児童生徒の発達や興味・関心を把握し、これまでの考えとの「ずれ」や「隔たり」、対象への「あこがれ」を感じさせる体験活動を工夫する。第3に、学習対象への課題意識を学級で共有し、言語化する学習活動を位置付ける。学習対象を表すキーワードは、その後の学習で、比較したり、関連付けたり、類推したりする思考を促す。

（2）課題を「問い」や「仮説」にする

「課題の設定」の学習過程での問題点として、「課題」が事象にとどまっていることが挙げられる。課題は、調べる対象ではなく、児童生徒の追究の意欲を高めるとともに、探究的な学習の具体的な見通しを示すものである。どのように情報を収集することが効果的か、集めた情報から何が言えればよいのか、「誰に」向けて「何を」発信したいのか等、課題が児童生徒の探究的な学習を支えていく。

本研究会議では、課題を「問い」や「仮説」にすることで、探究的な学習を支える課題の設定ができるのではないかと考えた。「地球温暖化」という事象ではなく、「なぜ地球温暖化は、現代社会の大きな問題になっているのか。」のような「問い」、さらに、「地球温暖化は、私達の生活習慣が変化したことによって深刻化したのだろうか。」のような「仮説」にする。このことにより、「立証するにはどのような情報を集めたらよいか。」「何が言えればよいか。」「誰に何を発信することが有効か。」という探究的な学習の方向性と具体的な学習活動を、児童生徒自ら明らかにすることができる。

2 検証授業

(1) 小学校3年「町の名人に学ぼう」(40時間)

①単元目標

地域で働いたり地域のために役割を果たしたりしている人達とかかわることを通して、地域には自分達の生活を支えるために努力している人達がいることに気づき、地域の一員として自分にできることを実践しようとする。

②「課題の設定」の学習過程(1/40時間目から5/40時間目まで)

表1 指導と評価の計画

時	主な学習活動	「課題の設定」における留意点
1 2 3 4	<p>■しょう油づくり名人であるAさんの工場を見学したり、話を聞いたりして、「すごいな」「びっくりだな」と思ったことをメモする。</p> <p>■もう一度Aさんの話を視聴し、前回気付かなかったことをメモに書き足す。</p> <p>■しょう油づくり名人Aさんの「すごい」ところを出し合い、「名人」とはどんな人かを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>話し合いにより学級で共有した「名人の定義」</p> <p>i 一つのことを長く続けている ii 技術をもっている</p> <p>iii みんなのために頑張っている iv 伝統を守っている</p> <p>v 努力を続けている vi チャレンジし続けている</p> </div>	<p>*社会科「身近な地域」「地域の人々の生産や販売」での学習内容を生かせるようにする。</p> <p>・「川崎マイスター」のDVDを視聴し、「町の名人のAさん」への関心を高める。</p> <p>・体験活動とDVDから得た情報を合わせ、「名人」に対する自分なりの考えをもつ。</p> <p>○「名人の定義」の話し合いを、掲示できるように整理する。次の3点は出したい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i 長く続けている</p> <p>ii 技を磨き続けている</p> <p>iii 町の人のために頑張っている</p> </div>
5	<p>「町には他にも名人がいるよ。」←</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>町の名人を調べよう</p> <p>「〇〇さんは名人だ。それは、△△だからだろう。」</p> </div> <p>○調べたい名人を決め、その人が名人だと思う理由を考える。</p>	<p>*子どもたちの意見を、学区の地図におとしして掲示する。</p> <p>・これまでの学習や生活体験から、町にいる他の「名人」に目を向けさせる。</p> <p>評価規準：地域の名人について課題をもって調べようとしている。</p> <p>評価方法：ワークシートの記述や発言</p>

ア 学習対象への課題意識を高める

本単元では、地域の一員として自覚をもち、地域に積極的にかかわろうとする態度を育てたいと考えた。そこで、「地域で働いている人々とその取組」を学習対象とし、「名人」という視点で見直すことから、地域のために働いたり活動したりする姿をあこがれの対象として捉えさせるようにした。

事前に教師がAさんの話を聞き、Aさんの教材としての価値を十分に把握して、見学等の学習活動を位置付けた(表1中■印)。Aさんについて話し合った4時では、話し合いから「名人の定義」を6つの視点にまとめ、共有した。また、社会科の学習で作成した絵地図や「町のお店調べ」等の作品を教室に掲示し(表1中*印)、子どもたちが「町の名人」を既習内容と関連付けて考えることを期待した。「Aさんは町の名人だね。」という教師の問いかけが、「町には他にも名人がいる。」という子どもの発言を引き出し、絵地図をもとに調べたい名人を考える活動へとつながった。

イ 課題を「問い」や「仮説」にする

子どもたちの発言から、「自分達の町は、名人がたくさんいるすごい町だろう。」という共通の課題意識が高まり、一人一人が名人を調べる必然性が生まれた。共有した「名人の定義」をもとに、これまでの学習や生活体験から、調べたい名人を考えた。調べたい人のみを挙げるのではなく、「なぜ名人と言えるのか」について根拠を挙げて文章化し、各自が課題を設定した。「交通整理員のBさんは、毎朝笑顔でみんなの安全を見守ってくれているから名人だろう。」と仮説で示した課題からは、「Bさんの『みんなの安全のために頑張っている。』という言葉を引き出すインタビューをする。」「Bさんの仕事を他学年の人が知っているかアンケートをとる。」等の具体的な学習活動が計画された。

(2) 小学校4年「未来へジャンプ」(25時間)

①単元目標

地域の人や家族等の身近な働く大人から働くことや仕事についての考えを聞くことを通して、働くことに対する思いや考え方を感じ取り、将来の自分を見通し、その成果を日々の生活や学習の中で生かそうとする。

②「課題の設定」の学習過程(1/25時間目から5/25時間目まで)

表2 指導と評価の計画

時	主な学習活動	「課題の設定」における留意点
1	■自分が成人したことを想像し、大人になることや働くことに対する考えを交流する。	*10才の自分達は、20才で迎える成人式から二分の一の位置にいることを確認する。 ・自分達の考えとのずれを意識させる。特に「働くこと」に対する意識の違いを取りあげて話し合い、町の人に話を聞く活動につなげる。 ・Cさんには、学習の意図を伝え、働くことについての思いを「やりがいを感じること」「大変なこと」の両面から話していただく。 ・働くことには、「やりがいを感じること」「大変なこと」の両面があることに気付かせる。 ・身近な人の働くことへの思いを、Cさんの話と関連させて考えさせる。 評価規準：身近な働く大人の思いを、課題をもって調べようとしている。 評価方法：ワークシートの記述や発言
2	■20才の新成人にインタビューする。	
3	■働くことに対する自分や20才の人達の考えと比較しながら町で働くCさんの話を聞く。	
4	■自分達、20才の人達、Cさんの働くことへの思いを比較し、それに対する考えを全体で交流する。	
5	「家族や身近な大人の人に、働くことの『やりがい』や『大変なこと』等をもっと聞いてみたい。」←	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 働く人の思いを調べよう 「〇〇さんは働くことや仕事について△△という思いをもっているのではないかな。それは、◇◇だからだろう。」 </div> ○調べたい大人を決め、その人の働くことへの思いを考える。	

ア 学習対象への課題意識を高める

本単元では、10才の節目に、働くことについて10才なりの考えをもち、大人になることや働くことに期待を抱いて成長していこうとする態度を育てたいと考えた。「働くこと」は、子どもたちにとって切実な問題とは言えない。そこで、「身近な働く人の存在と働くことの意味」という学習対象へのアプローチに「新成人」、「地域で働くCさん」との2つのかかわりを位置付けた。(表2中■印)

1時では、大人になることや働くことに対する自分の考えを出し合った。働くことが、「つらい」「面倒」のような考えも否定せず、今の姿として捉えた。2時では、新成人となる卒業生から現在もっている夢やその実現のために行っていることを、3時では、地域で働くCさんから自分の仕事に対する思いを聞いた。4時では、1時の自分達の考えと2・3時の新成人やCさんの考えとの隔たりを意見交流によって共有した。成人や将来に向け、今、自分達が働くことについて考える意味を捉え、「もっと、家族や身近な大人に、働くことについて聞いてみたい。」という学習活動につながった。

イ 課題を「問い」や「仮説」にする

「身近な大人も働くことに思いをもっているだろう。」という共通の課題意識が高まり、調べたい人考えた。

「美容師のDさん」についての課題では、「Dさんは、七五三や成人式等、お祝いの日に役に立てることがやりがいだろう。お客さんの願いは一人一人違うので、それに応えることは大変なのではないか。」という仮説が設定された。課題意識が「美容師の仕事」ではなく、「美容師のDさんの働くことへの思い」に向いており、「まず、美容師の資格や仕事内容を本で調べる。」「『お客さんのため』』にしていることを中心に、インタビューの質問内容を構成する。」等の具体的な学習活動が計画された。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

(1) 学習意欲の継続

学習対象への課題意識を高める学習活動の工夫は、子どもたちの学習意欲を継続させ、探究的な学習を充実させることにつながった。課題は、探究的な学習を支える原動力となることを再確認できた。

表3 単元の振り返り

私はインタビューの質問を考えるとときに獣医師のE先生の「すごいところ」が引き出せるように考えました。しょう油づくりのAさんの「毎日しょう油に愛情を込めている」という言葉のようにE先生が動物のために愛情を込めて努力を続けている言葉を引き出したからです。私はE先生が動物に診察や注射をするとき、「痛かったな。」「ごめんな。」と声をかけているのを見て、これが名人の言葉だと思いました。(中略)だから、私は発表するときどうすればみんなが分かって、「すごい、E先生は町の名人だ。」と思うかをいっぱい考えました。(後略)【3年】

私はお母さんへのインタビューやCさんの話を聞いて、働く人が大切にしているのは、「誰かの笑顔のために頑張ること」だと思いました。だから、「ありがとう」と言ってもらえることが嬉しいのだと思います。私はデザイナーを目指すことにしました。私はデザイナーになったとき、そういう気持ちで働きたいです。(中略)20才の先輩が、「興味をもったことは何でもやっごらん。」と言ったことが心に残っています。興味をもったことを何でもやってみることが、デザイナーになった私につながっていくと思っています。【4年】

(2) 探究的な学習の方向性の明確化

「問い」や「仮説」による「課題の設定」を行ったことで、探究的な学習の方向性が明確になり、その後の「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程も充実した。

「情報の収集」では、課題をもとに、集めたい情報や質問内容を吟味したり、インタビューの構成を工夫したりする子どもたちの姿が見られた。また、想定していない情報を得た際には、自分達の仮説を立て直し、情報収集の視点を更新する姿が見られた。働くことについて、「やりがい」と「大変なこと」の2つの視点でインタビューしていた子どもたちは、「仕事は大変だがつらくはない。」という言葉に出合った。その後の「整理・分析」の学習活動では、「今やりがいと感じていること」と「これから挑戦していきたいこと」の新たな視点で情報を整理した。また、町の名人について調べた子どもたちは、「思ったとおり自分達の町は、名人がたくさんいるすごい町だ。」という確信をもった。「こんなにすごい町だということを、町の人達に伝える感謝の会をしたい。」と相手意識と目的意識を明確にもって、「まとめ・表現」に取り組んだ。

2 課題

本年度の研究では、小学校中学年で検証授業を行った。子どもたちの発達段階から、小学校高学年や中学校での「課題の設定」の学習過程では、異なる視点も加えて学習活動の充実を図る必要がある。小学校4年生の実践でも、仮説を立て直す場面があった。学習のスタートに当たって課題を吟味することや課題追究の過程で課題を見直したり更新したりすることは、学習活動の充実につながる重要な視点であると考えた。

最後に、研究を進めるに当たり、適切なお助言をいただきました先生方、研究員所属校の校長先生ならびに教職員の皆様に心から感謝し厚くお礼申し上げます。

【指導助言】

川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究会長（川崎市立東高津小学校長）道田 公美子

川崎市立中学校総合的な学習の時間部会長（川崎市立富士見中学校長）江尻 孝美